

研究の国際展開に向けた取組

URA 望月 麻友美



国際対応のURA活動

外国アカデミアとの共同研究の促進を目指したURA活動

大阪大学と、本学研究者の研究の国際展開を目指して

1. 学内の基盤整備
2. 研究者支援

学内の外国人研究者にむけたURA活動

外国人研究者が研究を遂行しやすい大阪大学を目指して

3. 外国人研究者支援

1 学内の基盤整備

① 研究推進人材等の国際対応向上を目指した取り組み

研究の更なる国際展開を支える基盤整備

1. 事務系職員の海外研修 試行を含め計3回(欧州、豪州) メールマガジン Vol. 3
若手事務職員による主体的な海外調査
2. 学内の研究推進人材等との合同海外調査 計4回(北米、欧州、アジア)
あるテーマについて学内関係者と海外調査
・オランダにおける人文・社会科学系の評価指標、大学の研究支援業務
・香港の研究大学における大学運営体制と研究支援体制 等
3. 研究推進人材のための海外助成に関する勉強会開催及び
学内支援対応の整備
欧州連合Horizon2020プログラムに関して外部講師を招いた勉強会と意見交換

効果

事務系職員をはじめとした研究推進人材の国際対応への主体的な関わりのおかげ、ネットワーク作り



2

1 学内の基盤整備

② 研究推進人材等のスキルアップ

海外のURA活動を参考にしたり、研修プログラムを受講し、
大阪大学の研究推進人材等のスキルアップを図った

平成24年度

1. サイエンス・マネジメントについての研修
「サイエンスマネジメントの重要性」(IRIS科学・技術経営研究所)

平成26年度

2. デンマーク オーフス大学Research Supportセミナー (3日間) メールマガジン Vol.9
～組織の中でURAを活用するには? URAとしてステップアップするには?～
3. グラントライティング ワークショップ (2日間) メールマガジン Vol.18予定
申請書編集の方法論やロジックモデル等のProposal Developmentについて学ぶ
(SRA International)

効果

- ・誰もが客観的に見ることができる事例を基に、自分たちを振り返ることで、業務の改善、新たな業務開拓、スキルアップと意識の向上につなげることができた
- ・学内研究推進人材のネットワーク作り



3

1 学内の基盤整備

③ 研究の国際展開のきっかけ、機会作り

世界トップ10に向けた支援策 より

学内助成プログラム名	内容	メールマガジン
国際合同会議助成	海外の研究機関と大阪大学の研究者による国際合同会議(シンポジウム)を支援	Vol. 3、5、13
研究成果の国際的発信支援プログラム	外部業者とURAによる個々の研究者に適した学術英文校正等の支援	Vol. 7
国際共同研究促進プログラム	最先端の研究を展開している外国人研究者と大阪大学の研究者との共同研究を支援、学内にジョイントラボを形成	Vol. 15
未来知創造プログラム	異なる研究分野の若手研究者の連携による共同研究に対する助成	Vol. 10、15
クロス・アポイントメント制度	本学と別の機関の双方に身分を有し、双方で業務を行う制度	

国際共同研究のきっかけとなる学内助成の企画、とりまとめ及び運営支援、研究者への聞き取りなどによるフォローアップ

効果 研究者の状況やキャリアに合わせた学内助成の整備により、国際共同研究や研究者の行き来が活発になった



2 研究者支援

国際展開を狙う研究者への支援例

1. 国際シンポジウム企画支援 メールマガジン Vol. 5

大阪大学と相手校の間に複数のコネクションや活動が生まれるように、様々なキャリアの研究者にとって、今後につながるような複数の企画の実施

効果 シンポジウム後の“何か”が確実に生まれつつある
このような“何か”が複数のネットワークで始まることにより、国際連携、機関同士の持続的な研究協力関係の形成にもつながっていく

2. 海外助成関連の申請書作成支援

欧州のHorizon2020
国際共同研究事業 等
の申請にあたり、学内の研究者と相手機関との調整を含む申請書作成支援

効果 URAが研究者と共に助成制度・応募要領の確認や申請書のブラッシュアップ、相手機関との調整を行うことで研究者が国際共同研究に対する助成に挑戦しやすい環境に



おわりに



プログラムの改善をすすめながら継続
学内組織との更なる連携強化
新たな展開、海外の相手機関との協力 など



研究の更なる国際展開が期待できる大阪大学へ